

土浦めぐみ教会 障がい者福祉礼拝（2020年8月30日）奨励原稿（最終版）Ver.1

奨励題：愛は忘れない

奨励者：金尾雄二

聖書： 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネの福音書3章16節

聖歌：奨励前の会衆賛美 「聖歌392 神はひとり子を」

福祉共生献金の時の会衆賛美 「友よ歌おう51 忘れないで」（パワーポイント用の楽譜と歌詞は、武先生が用意して下さいます。）

おはようございます。

障がい者福祉礼拝ということで、教会が行っている障がい者福祉サービス事業「からしだね」の働きをご紹介します、「からしだね」を通して神様が教えて下さったことをお分かちしたいと思います。

これまでの皆様の祈りと支え、神様のお守りとお導きを心より感謝いたします。そして「からしだね通信」や「ともにいきる♪」をお読み下さり有難うございます。新型コロナウイルス感染拡大により3月～5月にかけてご利用下さる方が大幅に減り資金不足が生じましたが皆様が献金して下さっている「からしだね支援献金」から100万円をお借りすることで働きを継続することができています。心より感謝いたします。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のために様々な対応をとることにより、デイサービスに来ているご利用者の居場所を確保し続けられていることも主の恵みです。

「からしだね」は5年前の6月に訪問サービスが始まりました。そして、3年前の6月から通所サービスが始まりました。その特徴は職員全員がクリスチャンであり、職員一人ひとりがキリストに愛されていることを体感し、サービスをご利用下さるお一人おひとりにキリストの愛が伝わるようにと一対一での支援をしつつ全職員で全児童を見守っていることです。また、マナ愛児園、森の学園、教会学校と深く連携することで子ども達が豊かな経験をもとに成長できるようにと支援していることも教会ならではの大きな特徴です。

それでは、その実際の様子を職員の方々に紹介して頂きます。

① A君（上窪田職員） （第1礼拝と第3礼拝） 2200文字

からしだねの1日は、9:00-14:00までは未就学児を対象にした児童発達支援、14:00からは小学生以上を対象にした放課後等デイサービスの働きがあります。

有り難い事にご利用者の皆さんはからしだねに来る事を楽しみにしてくれていて、あまり言葉が出ないお子さんがからしだねに行きたい時やからしだねに来た時に「からし！」

「からし！」と言ってくれる事があり、私達スタッフも喜びを感じながら子ども達をお迎えして楽しく過ごしています。

そのような働きの中で今日は、児童発達支援の働きの中で担当しているA君の事について少しお話しさせていただきます。

A君は大きな病気をし長い入院生活を経て、4歳になった2019年4月からからしだねのご利用を開始され、今年度はマナの年長さんであるはと組に所属して元気に通園されています。

ご利用にあたってご両親からのご希望は、

- 1、集団生活をさせたい。
- 2、その年齢の子供が経験する事を同じように経験させたい。
- 3、年長の歳になった時には、マナ愛児園のはと組に単独で通園出来る様になって欲しい。

というものでした。

お母様が以前からしだねが発行している“ともにいきる”に原稿を寄せて下さった中でこのようにおっしゃっています。

「わが子もマナのお友達と一緒に遊んだり、今までできなかった楽しいことをいっぱい経験させてあげたいと思っていました。でも特別な配慮が必要で、1人で園生活を送るには不安もありました。そんな時に、からしだねを利用しながらマナに通えると教えていただき、それなら是非！とお願いすることになりました。」とあります。

このように現在からしだねの児童発達支援をご利用の方たちは、マナ愛児園に通いたいけれど特別な配慮を必要としているために単独で通うには困難であるが、その為に必要な支援をからしだねが担うことによって、マナ愛児園とも協力し合ってご本人の園生活を実現させています。

A君にとって生まれて初めてと言っても過言ではない外の世界で、いきなりその年齢相応の生活を始める事について心配な事を挙げるときりはありませんでした。今コロナウイルス感染拡大防止の為に私達は見えないウイルスが身体に入らないように色々な対策を講じています。早く収束して欲しいと心の底から願っていますが、A君はこの時から既にあらゆる細菌やウイルス感染防止の為に尽力しています。環境整備、衛生面、薬の服用によることへの配慮、食事管理など生活のほぼ全てに渡り細心の注意を払う事が必要でした。お母様とその1つ1つを確認し合い、主治医の先生にも確認して頂きながら、日々の生活やマナの行事への参加についてどのようにすればA君が安全で楽しい経験を積んでいけるか、そしてそのことによって成功体験を積み重ね、自信と達成感を得られるか、マナの担任の先生とも話し合いや事前準備を重ねて過ごしてきました。

A君は、私達が当初思い描いていた以上に、マナでの生活を健康的にそして活動的に過ごしてきました。自分が何を気を付けなければならないかも良く理解していて、他の子と同じタイミングで次の場面に移りたくても、手洗いやマスクの交換、紫外線対策や着替えなど嫌がらずにきちんと取り組んできました。おかげで殆ど病気もせず感染症からも守られています。4月からはと組さんになる！という事を目標に、何でも1人で出

来る様に頑張ってきました。けれど2月からのコロナウイルス感染拡大の為にA君も自宅待機を余儀なくされ、いつまたマナで生活できるようになるのか不安がいっぱいでした。はと組になるために今まで頑張ってきたのに、、とも思いました。自宅待機の間、からしだねとしても何か支援は出来ないかと色々検討しましたが、他の子の何倍も感染した時のリスクがある事を考えると一歩踏み出す事が出来ませんでした。

しかし少し収束してきた6月に入り、主治医の先生からの話もあり、またマナでの生活を少しずつ始めました。不安もたくさんありましたが、既に感染症対策が身についているA君にとっては、今までやってきたことをそのまま行えばよく、むしろ周りの人たちの手洗いの回数が増えたり除菌への意識が高まり、環境的には良くなった面もあります。

また、7月に入るとマナでの生活にもお友達にも慣れ、私がいなくても1人で安全に楽しく過ごせる時間が増えてきました。本人が立てた今の目標は、「4月から小学生になる」です。小学生になる来年の3月までに、できるって楽しいと感じながら更に色々な経験を積み重ねていけるようにマナ愛児園とも連携してきめ細かい支援を続けていきたいと考えています。

A君が手術を受けた時、A君と同じ学年の子供達がこひつじ組で、そのクラスを私が担任していました。当時まだ小さいこひつじさん達にA君の事を話し、元気になってみんなのようにマナにくることが出来るよう一緒にお祈りしていました。昨年A君がマナに通うこ

とを希望されていてその支援を担当して欲しいとの話を頂いた時、3年前に子ども達と捧げていた祈りを神様が聞いて下さり、畏れ多い事ですが、その手伝いを私にするようにおっしゃってくださっているように感じました。あの祈りの日々から私の働く場がマナからからしだねに変わりましたが、これまでの歩み全て神様が導いて下さっている事を確信することが出来ました。

知識も経験も足りない者ですが、これからも神様の導きに従い歩んでいきたいと思っています。教会の皆様もからしだねの小さい種が豊かな実を結んでいけるようにお祈りをお願い致します。

② のぞみちゃん（鈴木職員） （第2礼拝のみ） 1489文字

かねてよりの希望が叶い昨年秋よりからしだねで勤務している鈴木と申します。

私が主に担当するのぞみちゃんは、先天性の病気により、自力で歩行することや、たくさんの言葉を用いてコミュニケーションを取ることに難しさがあります。そんなのぞみちゃんの賜物は、人が大好きで愛嬌抜群なコミュニケーション能力と、誰にでも愛されるとびきりの笑顔、そして、ちょっとクスッと笑ってしまう愉快な一面だと私は思っています。

のぞみちゃんは、もともとマナ愛児園への入園を希望していた経緯もありましたので、「みんなと一緒に生活する」ということを一番に考えて支援をしています。

朝、のぞみちゃんと一緒に、からしだねからマナ愛児園へ行くと、クラスの子たちの熱

烈な歓迎が待っています。子どもたちがいろいろと手伝ってくれようとする中、「のぞみちゃん、自分でできるから・・・」と私がお話し、のぞみちゃんと一緒に朝の準備をします。

マナの子どもたちは、ほかの子たちと変わらず、のぞみちゃんに接しています。そして、私よりも子どもたちのほうが、のぞみちゃんのやる気や楽しみを自然に引き出してくれるため、子どもたちとの触れ合いが持つ力に毎日感動しながら過ごさせていただいています。

一見すると、子どもたちは、のぞみちゃんのお世話をしているように見えるのですが、よくよく見ていると、いつも変わらずみんなを大好きなのぞみちゃんを、ほかの子たちが必要としている場面も多く見られることにも気づきます。

のぞみちゃんは、大きな音に敏感な部分もあります。去年は、園での生活の中のかなりの部分を、両手で耳をふさいでいることについて、観察を続けていました。音なのかな、音以外の何かかな、と。のぞみちゃんは、四つ這いで移動できる、と、お母様から聞いてはいましたが、実際は両手は耳にあるため、移動もままならず、色々な活動や食事にも困難がありました。

ある日、お母様がイヤーマフを持ってきてくださいました。のぞみちゃんは、感覚にも過敏さがあるため、イヤーマフを装着することにも困難もあるかも、とも思いましたが、一日目、ちょっと我慢してもらって装着していたところ、自分でもその快適さに気づいたようで、それからは毎日しています。両手が自由に使えるようになり、生活が一変しました。

行動の幅もぐんと広がり、笑顔も増えました。

そんなのぞみちゃん、ある日、クラスのお友だちが大泣きする場面に遭遇しました。イヤーマフはしていましたが、のぞみちゃんも泣いてしまいました。以前なら、「大きな声に耐えられないんだな」と考えたところですが、真実はどうやら、お友達が泣いている気持ちに共感しているようだということが分かりました。のぞみちゃんの優しさが分かった瞬間でした。

また、「耳をふさぐのは、大きな音ではないかも」と考えていた点については、どうやら美しい楽器の音なら、大きくても構わないということも分かってきました。ピアノの音や、みんなが上手に歌っている声だけが大きいときには、自らイヤーマフを外し、心地よさそうにしています。

このように、どんな工夫があれば、のぞみちゃんが、よりのぞみちゃんらしく、生き生きと毎日を過ごしていけるのかを観察し、お母様と相談しながら、試行錯誤で進んでいます。

私たちは一人ひとり、神さまが完璧な計画のもとで創ってくださったのだということを、そして、一人ひとり、かけがえのない存在なのだということを、ありありと感じながら過ごさせていただける毎日には、本当に感謝ばかりです。

これから、9月の運動会へ向けた練習が始まります。のぞみちゃんの健康が守られ、楽しく園生活が送れるよう、お祈りしていただければ心強いです。よろしく願いいたします。

③ 琉希君君（ターンブル職員）（第1礼拝と第2礼拝） 1200文字

からしだね職員のターンブル聡子です。

証をさせていただきます。

からしだねの放課後等デイサービスではたらき始めて、2年が経ちました。放課後等デイサービスとは、学校の放課後にお子さんが利用されるサービスです。長期休みにはご利用時間が長くなるお子さんが多くいらっしゃいます。

ご利用者であるお子さん達の成長を間近で感じられる幸せを感じつつ、自分のいたらかなさを情けなく思い、次はより良い働きをしたい、そんな思いを抱えながら日々を送っています。また、そんな思いも受け止めてもらえる職場環境に感謝しています。

昨年は摂食サポートのセミナーに参加し、障がいのあるお子さんに食事介助する際の様々な知識を得る機会を与えられました。セミナーは大体月に一度2時間程度、内容は摂食段階の判断、誤嚥や嚥下機能、適切な食物の形状、介助の仕方等の講義を受けたり、グループワークを行ったりで、それまで食と言うものにきちんと向き合っていなかった私には本当に勉強になることばかりでした。中でも印象深い講義はご利用者さんを想定した様々な食形態の食品を指示された口や舌の動きで実食するというものでした。講義を通して、先生方が何度も、「こんな風に食べるとおいしいですよ?」、「この摂食段階にこの形状の食物は適切ですか?」とおっしゃったことでした。ご利用者さんにとって食事は安全であるのはもちろん、栄養摂取という目的以外に食事はおいしく楽しいものと感じる機会であってほしいという思いが込められているように感じました。

このようなセミナーの資料・情報はからしだね全体で共有し、放課後等デイサービスの利用時間でもできることを行っています。

ご利用者の琉希君は、笑顔が素敵で、お話すること、食べることが大好きな男の子です。おいしく、楽しく、安全に心を心がけ普段はおやつ介助をさせていただいています。受講を始めた頃は講義が座学中心であったこともあり、実際の口の動きや口腔内を知るためののぞき込むような観察めいたことをしてしまい、心がけとは裏腹にRくんにはあまり楽しくない思いをさせてしまったととても反省しています。

その後琉希君が通院する歯科での摂食指導を見学し、おいしく食べること、安全を守ること、機能を向上させることの工夫を教えていただくという機会にも恵まれました。

さらに、この春からは琉希君をよくご存知で、摂食の知識も経験も豊富な寺田さんが職員としてからしだねに加わってくださり、学校の休業期間や長期休みにはおやつ

だけでなく、食事介助の様子も勉強させていただいています。神様が私たちにそなえてくださるものの素晴らしさを改めて実感します。

琉希君は、このような環境の中でこれまで以上に食事を楽しんでいるように感じられます。食べ方もよりよくなり、味だけでなく食感についてもコメントがあるのはしっかり味わっている証ではないかと思います。本当に嬉しい感謝のときです。

これからもからしだねの働きが守られますようお祈りください。

ありがとうございました。

④ 琉希君（飯田職員） （第3礼拝のみ） 1500文字

からしだね職員の飯田美由紀と申します。今日この様に皆様に証させて頂く事、とても大きなプレッシャーではありますが、からしだねで頂いている恵みを皆様にお伝え出来ますことを感謝したいと思います。

開所して間もなく、からしだねで働かせて頂くようになりました。大阪から茨城に移り住んだばかりで廻りの職員さんとも面識が無い状態でしたが神様が素晴らしい出会いを与えて下さることを信じベテスダのお掃除を手伝わせて頂いたことを覚えています。

マナ愛児園を卒園し支援学校からからしだねの放課後等デイサービスを利用してくださっている琉希君との出会いもその時からでした。人懐っこくて色々な話をしてくれて慣れない環境での私にいつも笑顔をむけてくれました。おやつの介助、長期休みには食事介助も担当させて頂きました。こちらにくる以前は障がいのある大人の方たちの就労継続支援の仕事をしていましたが、障がいのある子どもの食事介助は初めてのことでとても緊張しましたし気を使いましたが、食べ物一つ一つに込められている保護者の方の思い、本人の食べようとする意欲に励まされ、おいしく、楽しく、安全に食べて頂く事に集中しました。

去年は「摂食」に関する研修に参加させて頂き、普段自分の食事に関して当たり前のように食していることに気づかされ摂食に困難を伴う人達のことを改めて考える時を与えて頂きました。出産時に何らかの障がいを持ち生まれてきたお子さん達がお腹の中でお乳を吸う練習が出来ていなかったりお乳を吸うメカニズムが崩れてしまった場合、赤ちゃんは自分からお乳を吸うことができない、先天的摂食機能障害が始まるということも知りました。

琉希君が摂食指導を受けている歯科医院にも琉希君、保護者の方と一緒にいかせて頂き指導を受ける機会もありました。からしだねでの様子だけではなくお家での様子も教えて頂ける貴重な時間となりました。食べる事が大好きで色々なことにチャレンジしようとする琉希君のお手伝いが少しでもできればと思っています。以前の仕事は障がいのある大人の方たちとの活動でした。時にご利用者の気持ちに気付かず、自分でも気付かないうちにじぶんの思いを通してしまっていることもありました。そんな時に神様に祈ると神様は答えてくださり私の弱さを示して下さりご利用者に謝ることを許してくださいました。そして前以上の関係を築けるようにしてくださいました。

私の中での福祉の3K、「決めつけない、これでいいと思わない、考え続ける」をいつも心に置き、障害があるから仕方ないではなく、その子の持っている力をどうやったら引き出せるか、そして自分の価値観を当てはめないことを忘れないように支援させて頂きたいと思っています。

琉希君は色々なことに興味があって楽しいことが大好きです。私のことを「大阪のおばちゃん」とリスペクトしてくれているのか「おもしろいことやって!」とよくリクエストしてくれます。楽しい時間を共有することは私たち職員にとっても大きな喜びです。また前向きな姿勢で一生懸命、何事にも取り組む姿を見せて頂いています。お互いがWINWINの関係でいたいと願い神様の力で頑張らせてくださいと祈っています。

琉希君は現在小学校4年生ですがこれからも神様の大きな愛で包まれてあらゆる可能性に挑戦して行ってほしいと願っています。又、私たちがそれに関わることのできる恵みに感謝し私たちにできる精いっぱいを探ることができ、からしだねの働きが主のみ旨に叶う働きとなりますようにお祈り頂ければ幸いです。

⑤ 元希君（井上職員） （第1礼拝と第2礼拝と第3礼拝） 1500文字

[映像係への指示]元希君の写真を出す（オンライン送信には出さないこと）

元希君について、お話させていただきます。

元希君に出会ったこと、元希君とともに過ごしたことは私にとって生涯忘れることのできない宝物です。この宝物は、天の御国に持っていきます。元希君は、この地上で9年8ヶ月のかけがえのない人生を歩まれ、昨年9月に神様のみもとに召されました。

元希君は出生時に低酸素性虚血性脳症と診断されていました。ご両親様が元希君にかけた愛情は並大抵のものではありませんでした。また、医療、療育に携わる方々からも手厚いケアを受けて成長した元希君は、マナ愛児園はと組で1年間を過ごし、卒園後は特別支援学校へ進学されました。

ご両親様は、元希君の健康状態と学校生活を注意深く見守られ、小学校3年生の7月から放課後等デイサービスのご利用を始められました。私たちは、4年生の9月まで1年2ヶ月をともに過ごさせていただきました。利用開始当初は、ペーストにした少量の昼食を食べるのに2時間かかりました。少しずつ慣れて身体も大きくなり、食事量も増え、今年の夏には1時間程で食べ終わられるようになりました。生活のペースもできてきて、毎回とびきりの笑顔で過ごすようになりました。送迎の車中でもいつも笑っていて、からしだねに行くのを喜んでくれているのがとても嬉しい日々でした。おやつプリン、そしてボール遊びが大好きでした。これからいろいろなことに一緒にチャレンジしていけそうだと楽しみに思っていた矢先、9月初めに体調を崩し、入院治療が続けられましたが、9月22日の朝、悲しいお報せが届きました。

ご両親様、ご親族様と相談させていただき、この礼拝堂で元希君の「お別れ会」をしました。マナ愛児園、森の学園、特別支援学校、療育、デイのお友達、そのご家族、先生方、医療関係者の方々、元希君を知る方々で礼拝堂がいっぱいになりました。礼拝堂の

4分の1程のスペースが車椅子に乗った子ども達のスペースになりました。子ども達の歌声が響き渡りました。洪先生が、元希君のことを、我が子を亡くしたかのように嘆き悲しまれ、祈り、慰めの言葉を語ってくださいました。

[映像係への指示]元希君パパママの写真を出す（オンライン送信には出さないこと）

来月には、元希君を送って1年になろうとしています。からしだね職員で折を見て、ご自宅への訪問を続けさせていただいています。ご自宅には元希君の笑顔いっぱいの写真がたくさん飾られています。赤ちゃんの頃の可愛らしい写真、ご家族で出かけられた時の数々の思い出の写真。動画もたくさん見せていただきました。こんなところまでよくぞ元希君を連れて！と、びっくりするような雪深い山奥での動画、病院での歩行器を使ったリハビリの動画、療育でプールに入って大はしゃぎの動画、お家の中でリラックスして過ごしている動画 etc..

身体の弱さがある元希君が、最大限に人生を味わい楽しめるようにとどれだけご両親様が、愛情をかけ、心を砕き、知恵と力を尽くして、元希君との日々を歩んでこられたのが訪問の度に伝わってきます。

ご両親様にとっては、年月が流れても、我が子を先に送った悲しみが消えることはないでしょう。神様だけがその深い悲しみを受け取ってくださいと信じ、私たちは元希君のことを思い、ご両親様のために祈り続けます。

元希君のお母様に、今回礼拝で元希君のことをお話させていただくことに関してお聞きしたところ、「元希の生きていた真実」として、何でもお話しくださいと言ってくださいました。

「生きていた真実」とは、なんと重みのある言葉でしょうか。

からしだねの働きは「永遠」に繋がる働きであることを重く受けとめさせられています。元希君は、元希君を知る一人一人に「生きていた真実」を残して行ってくれました。「これ以上の笑顔は世界中探してもどこにもない！」という笑顔を私たちにを見せてくれて、9年8ヶ月の命を駆け抜けていった元希君は、私の心の中で永遠に生きています。

⑥ 旭君（金尾） （第1礼拝と第2礼拝と第3礼拝） 400文字

[映像係への指示]旭君手術前の写真を出す（オンライン送信には出さないこと）

中学2年生の旭君について紹介させていただきます。今年1月に腭炎かもということで入院してから腸閉塞に端を発し上腸間膜動脈症候群という病気となり今まで何度も手術を繰り返し受けましたが、その度に腸の穴を塞ぐことが出来ずついには7月にはお腹を開けて小腸を取り出しての大手術を受けられました。自分の思いを言葉で表現できないもどかしさの中での繰り返し経験する痛みや苦しみ、コロナウイルス感染防止のために家族とも会えない辛さの中をも必死で耐えてきました。私には到底できそうもありません。マナ愛児園と森の学園の卒業生であり、「からしだね」の働きを始めるきっかけとなって下さった旭君の回復と退院、家庭生活が一日も早く実現される、以前のように一緒にの時を過ごせる日がくるようにといつも皆で祈っています。

[映像係への指示]旭君手術後の写真を出す（オンライン送信には出さないこと）

今は、この写真のように取り付けられていた管が一時的に点滴以外すべて外され、半年ぶりで胃に栄養を注入できるまでになり、ベッドから抜け出したくなるくらい元気になられたそうです。

以上で「からしだね」の働きの紹介を終わりますがいかがでしたでしょうか？「からしだね」の働きの様子を少しでも具体的にイメージして頂き関心を持って頂けたら幸いです。このような働きを通して「からしだね」は何をしているのでしょうか？それは、最初に述べましたように、サービスをご利用下さるお一人おひとりにキリストの愛が伝わるように、そしてお一人おひとりがキリストにあって意味のある人生を送っていることを実感して頂くためです。

さて、この8月には広島・長崎の原爆被害、太平洋戦争の敗戦など忘れてはならないことが75年経って忘れられようとしていることへの危惧が大きく取り上げられていましたが、皆さんはどのように感じられましたでしょうか？私は、広島、長崎、沖縄を訪れてその様子を伝えるものを直接見て聞いて感じることでその惨禍や教訓を忘れないようにとしましたが、悲しいかなその時に受けたものは少しずつ薄れてきています。「喉元すぎれば熱さ忘れる」といいますが人は忘れてはいけないこともすぐに忘れてしまいやすいものです。それでも、聞いて知っていただけの時とは違い、現地に行って人と会い肌で感じ経験したことは確かに自分の中に残っています。コロナウイルスが人から人に感染するような新型に変異したことで、人と人が直接接することに困難が伴うようになった今、ますます忘れられてしまう人が多くなるのではないかと私は危惧しています。

皆さんは、人から忘れられてしまい、誰からも関心を示してもらえなくなったらどうでしょうか？自分が生きている意味を感じられなくなり、生きようとする力さえ失ってしまうのではないのでしょうか？今日生きていること生かされていることは当たり前ではない、障がいのある方々を支援している「からしだね」の職員はそう強く感じています。ですから、お一人おひとりが今日神様によって覚えられ生かされている大切な存在であることを忘れないようにと励んでいるのです。そこには、愛そのものであられる神様に忘れられることなくキリストの命という愛を注がれた者だからこそ出来ることがあります。

[映像係への指示]「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」ヨハネの福音書3章16節を出す

天地を創造し人をもおつくりになった神様は旧約聖書に記されている様々な約束を忘れることなく成就され、ついにはヨハネの福音書3：16にあるように、御子イエスキリストを十字架につけてまで私たちの救いを忘れることなく成就して下さいました。ここに神様のとてつもない愛があるのです。イエスキリストを救い主と信じた私たちは、この信じられ

ないような恵みを当たり前のように受け取って日々生活しているので、忘れてしまいやすいのではないのでしょうか？今日生きていること生かされていることは当たり前ではないのです。神を愛し、隣人を愛することを忘れないように求められている私たちは、いつでも神の愛を忘れず隣人を忘れないようにしたいものです。

今から45年ほど前私が受洗した頃ゴスペルフォークというジャンルの歌が流行っていましたが、今回の奨励を準備する時になぜかふっとその頃の歌を思い出したのでご紹介したいと思います。それは、友よ歌おうという歌集の「忘れないで」という歌です。それでは、お聞き下さい。

お祈りいたします

私たち一人ひとりを忘れず、ひとりとして滅びることなく永遠のいのちを持つために、私たちの罪の身代わりとしてひとり子を十字架におかけ下さった神様を心より感謝いたします。神は愛なり。愛は忘れない。それゆえに、私たちは今日を生きることができます。有難うございます。主イエス・キリスト御名によってお祈りいたします。